

平成 29 年度 久留米市在宅医療・介護連携推進協議会（第 1 回）会議概要

日時：平成 29 年 8 月 23 日（水） 19：00～20：30

場所：本庁舎 3 階 305 会議室

出席者：別紙のとおり

傍聴者：なし

資料一覧：次第

協議会要綱

資料 1,2,3 （仮称）在宅医療・介護連携支援センター設置について

議事の概要

1. 開 会

挨拶

2. 報 告

（1）退院調整ルール策定の取り組み経過について

資料に基づき退院調整部会長 柴田 元氏より説明

<質疑応答>

（委員①）

入院する際、家族からケアマネジャーへの連絡は実際に上手くスムーズに行えているのか。一番連絡が難しいところだと思うが。

（事務局）

なかなか連絡が上手くいかないというのは事実。今後、市民向けの啓発チラシを作成する予定。入院する際はケアマネジャーに連絡が必要だと市民に伝えることができるような内容も盛り込んでいきたい。

（委員①）

市民 30 万人に啓発するのは難しいと思うので、入院時の家族への声かけをシステムに組み込んだほうがいいのかと思う。

3. 議 題

（1）（仮称）在宅医療・介護連携支援センター設置について

資料 1, 2, 3 に基づき事務局より説明

（2）意見交換

会長にて進行

（会長）

久留米市内の 4 つの医師会が委託を受けることになると思うが、小郡三井医師会はどうか。

(委員②)

今年度から小郡三井在宅医療・介護連携支援センターを設置している。直接市民からの相談というよりは、まずは介護施設等からの相談窓口を少しずつ始めている。

(会長)

大川三瀨医師会はどうか。

(委員③)

大川市から依頼があり、このような事業の検討を行っている。医師会が事業の委託を受け、医師会中心に行っていくことを検討している。

(会長)

スムーズにいきそうか。

(委員③)

予算も含めて、様々なことを検討している。

(会長)

浮羽医師会はどうか。

(委員④)

浮羽医師会は例年通りで、平成 29 年度も同じ内容で進めている。

(委員⑤)

ここ数年間、在宅で仕事をしていて、久留米市で訪問診療を行う医師が増えてきていると感じているが、ずっと診てきた患者でも、病状が変わったときに「診ることができない」と言われる医師もまだまだいる。看護、介護の部門でもフォローするので、1 人でも訪問診療を行う医師が増えて欲しいと思う。先生方もなかなか難しいところだと思うが、現状はどうなのか。

(会長)

かかりつけ医といっても、皆が在宅医療を行っているわけではない。実際、難しい問題である。

(委員⑤)

現場で働いていると、そこが少しでも上手くいけば入院する患者も少なくなるのかと思う。

(会長)

病院を代表して、ご意見をお願いします。

(委員⑥)

病診連携ができればいいと思うが、入退院の繰り返しになり、最後は在宅でとなると、在宅で診ることができる医師が少ないという印象がある。そこをいかにカバーするかが重要だと思う。

(委員⑦)

病院から訪問診療を依頼しているが、やはり患者からはかかりつけ医にお願いしたいと言われる。

(委員④)

平成 25 年度から県医師会で在宅関係の仕事をしていて様々な意見を聞くが、まずは自分が診ている患者を最期まで診ていくことを少しずつ始めていくと、在宅に入りやすいのではないかという意見がいつも出ている。新しいことを始めるとなると構えてしまう医師も多いため、訪問看護等も利用しながら少しずつ取り組むと良いのではないかと思う。

今後、患者を在宅で診なければいけない時代が来る一方で、外来の患者は減っているため、在宅で診ざるを得なくなると思う。そのため、これから少しずつ考えていく必要がある。

(委員⑧)

資料 2 の 3 ページ目の事業内容の中の、「(1) 在宅医療・介護サービスに関する地域資源の『見える化』」のところだが、久留米医師会でリストを作成し、薬局もリストアップしていただいたが、このリストがあることを知らない方がとても多かった。今後広めていかなければならないと思う。

また、医師会のように薬剤師会もワンストップで相談するところがどこかないのかという要望を受けた。そこで、久留米三井薬剤師会では、電話で相談を受けると情報を書き留めることが大変なので、相談者がどの地域の薬局を探しているのかなどを書いていただく様式を作り、ホームページにも掲載している。久留米市内の薬局でなくても、他の薬剤師会に繋ぎ、薬局を紹介できるように活動している。薬局をお探しの際は薬剤師会のほうにご相談いただければ。

(会長)

先程の「医療・介護ガイドブック」の件だが、久留米医師会は来年の 2 月に久留米シティプラザで開催する市民公開シンポジウムの中でブースを設け、市民啓発を図る予定である。

(委員⑨)

少し視点が違うかもしれないが、良い機会なので先生方をお願いしたい。高齢者や障害者で多重疾患、多重障害となった方の治療が多科に亘るとき、要介護状態の高齢者等は複数の病院の受診のために体力を消耗し、入院してしまうという本末転倒なことが起きてしまう。そこで、退院時に紹介状を書く際、本当に受診できるのか、どこかの病院で一括して薬を出してもらえないかなど、優先順位を付けて検討していただけると有難い。

(会長)

その件については、10 月の久留米医師会の協議会で報告したい。

(委員⑩)

久留米歯科医師会としては、地域包括センターのような在宅医療の窓口を歯科医師会の中に作り、市民から相談があれば、まずは歯科衛生士が訪問して口腔内の状態を把握し、治療が必要な状態であれば歯科医師を紹介し、訪問診療を行っていくという事業を今年度から行っている。

(委員⑪)

浮羽歯科医師会は3年目に連携室を作り、先程言われたような事業を歯科衛生士5名程度で行っている。依頼があれば、まずは歯科衛生士がアセスメントし、治療が必要な状態であれば、かかりつけの歯科医師、かかりつけがいなければ歯科医師会から紹介した歯科医師に在宅で診ていただいている。事業を開始して2年が過ぎたが、120～130件の依頼があった。アセスメントだけで終わっている方もいるし、その後も口腔ケアを継続している方もいる。

浮羽歯科医師会は久留米市とうきは市にまたがっており、今回、久留米歯科医師会も医療連携室を作っているため、その辺がかなり重複しており、連携が非常に難しくなっている。

また、歯科の場合は観血的な処置が非常に多い。例えば、入れ歯を作るにしても抜歯をしなければいけないし、腫れていれば切開をしなければいけない。その場合でも、観血的な処置は危険なので在宅ではできないと言う歯科医師は非常に多い。そのようとき、医師との連携は非常に大事である。以前は、かかりつけの医師に電話で抜歯してもいいか聞いていたが、今は個人情報の関係で電話では教えてもらうことが出来ない。現在は、紹介状を書いたりするのに時間がかかるため、在宅医療というのは難しくなっている。ただ、2年程前から県から予算をいただき、在宅用の機械を購入できる事業等を行っており、浮羽歯科医師会の場合は、浮羽医師会の先生方と連携をとったり、ケアマネジャーとも講習会を行ったりしてなんとかやっているのが現状。

患者が在宅で食べることができるようにならなければならない方を調整するのはいいが、入れ歯がない方に総入れ歯を作る場合、寝たきりの方の型をとるのは非常に難しく、苦勞して入れ歯を作ったりしている。その辺りがもう少しスムーズにいくように、連携を取っていただければと思っている。

(会長)

おっしゃるとおり、医師会、歯科医師会、薬剤師会のタイアップは非常に大事。今後とも連携を強めていきたい。

(委員⑤)

以前、急性期病棟で働いていたときに、必死で働いても忙しかったが、病床を減らされ、看護師の配置が7:1になり、看護師の数を減らしていく時代になるのかなと思っている。在宅医療を行う方の勉強会はたくさんあるが、病院の医師や看護師が在宅について学ぶのは、病棟の業務を行うことで精一杯でそこまで行き着かない。まずケアマネジャーも大事だが、急性期の病院の職員の方が在宅医療について知っていただけるような効果的・長期的なプランもお願いしたい。

(会長)

同行訪問が大事なので、継続して行っていきたい。

(委員④)

同行訪問は医師だけでなく看護師もどんどん行って欲しい。

(会長)

今回の決議事項

・平成30年度に久留米市が設置する「仮称 在宅医療介護連携支援センター」について、久留米医師

会、浮羽医師会、小郡三井医師会、大川三瀨医師会にそれぞれ委託する。

4. その他

- ・事務局より課題抽出のための産業医科大学委託研究の報告。
- ・次回の開催は 11 月 22 日に予定。

5. 閉会

在宅医療・介護連携推進協議会委員名簿

敬称略

No.	所属団体名	役職名	氏名	備考
1	(一社)久留米医師会	理事	あさくら としあき 浅倉 敏明	出席
2	(一社)小郡三井医師会	理事	おごう よしお 淡河 喜雄	出席
3	(一社)大川三潯医師会	理事	いしばし ゆうじ 石橋 裕二	出席
4	(一社)浮羽医師会	監事	べつき しげふみ 戸次 鎮史	出席
5	(一社)久留米歯科医師会	理事	おか こうじ 岡 浩司	出席
6	(一社)大川三潯歯科医師会		やまさき けんたろう 山崎 健太郎	出席
7	(一社)浮羽歯科医師会	副会長	うすき もとひさ 臼杵 源久	出席
8	(一社)久留米三井薬剤師会	副会長	あおき かずこ 青木 和子	出席
9	大川三潯薬剤師会	理事	うちだ まさみつ 内田 政光	出席
10	浮羽薬剤師会		おがわ ひでのり 小川 英則	出席
11	(公社)福岡県看護協会		こだま たかこ 小玉 孝子	出席
12	特定非営利活動法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会(訪問看護部会)	副部長	はらだ みさこ 原田 美佐子	出席
13	特定非営利活動法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会(介護支援専門員部会)		きたはら くみこ 北原 久美子	出席
14	特定非営利活動法人久留米市介護福祉サービス事業者協議会(訪問介護部会)		なしま まさお 南島 政雄	出席
15	久留米大学病院医療連携センター		いしばし のりこ 石橋 紀子	出席
16	(一社)久留米医師会(病院関係)		まつくま のりと 松隈 則人	出席
17	特定非営利活動法人くるめ地域支援センター	理事長	しばた はじめ 柴田 元	出席
18	久留米大学医学部 環境医学講座	教授	いしたけ たつや 石竹 達也	欠席
19	(一社)久留米医師会(在宅療養支援診療所関係)		にしおか すすむ 西岡 進	出席
20	久留米市保健所	保健監	うらべ ふじこ 浦部 富士子	—